特別講義

図書館概論ゲスト講義

「図書館とまちづくり、学校教育支援 ～ 生駒市立図書館の現場から」

「図書館概論」の授業では、毎学期に一度、外部のゲスト講師にご講義いただく機会を設けています。図書館の現場の方々の話を聞くことによって、一回生が中心の受講生に図書館の現場を理解してもらい、図書館への関心を深めてもらうことを目的としています。今年度は、奈良県生駒市教育委員会事務局、生涯学習部生涯学習課課長で、前年度まで生駒市図書館の館長を務められた、向田真理子氏にお話いただきました。生駒市図書館は、そのサービスの充実、様々な新しい取り組みでよく知られており、それらについてご紹介いただき、また、それらの活動を牽引してこられた経験について語っていただきました。

まずは様々な人々、グループと連携した取り組みとして、ビブリオバトルや「まちづくりワークショップ」などの活動を紹介いただきました。地ビールをテーマとして取り上げてトーク、体験、図書館の資料を通して学ぶ企画は、とりわけ学生の関心を引きつけていました。また、本の宅配といった高齢者向けのサービス、「耳で楽しむ本の会」などの障がい者向けのサービスについても紹介いただきました。そして児童サービスにおける、ブックスタート、ブックトークといった取り組み、学校と連携した授業支援などの様々な取り組みについて受講生は知ることができ、最近の動向について理解を深めることができました。そしてそのために、技能研修や運営整備などの学校図書館への支援も生駒市立図書館が積極的に行っていることを学ぶことができました。

今回の講義を通して、受講生は公共図書館が行っている様々なサービスについて、現場の方の声を通して学ぶことができました。公共図書館が地域コミュニティーや子供の学びを支える場所として、その役割を広げていることと、同時に、そのためには、図書館員が図書館の外に出て様々な人たちと関わりを築いて行くことが、より重要となっていることがわかりました。

（鎌田　均　人間文化学科准教授）

特別講義

学校図書館における科学的思考の育成支援

学校図書館にはすべての教科の支援が求められているものの、実際には理科や数学における支援は弱く、その背景には学校図書館の専門職がそれらの教科の支援方法をよく知らないという現状がある。そのため、〈読書と豊かな人間性〉における今回の授業では、京都工芸繊維大学の大学院で物性物理学を専攻している大平遼氏を招いて、実際に理科の実験を受講生が体験し、その実験の意味を理解して、学校図書館がどのような支援をするのが望ましいかを考えた。

11月8日には、紙飛行機を使って空気抵抗と飛行との関係を考える科学実験を実際に体験することを通して、そこから児童生徒が何を学ぶのかを理解した。日頃私たちが考える「よく飛ぶ紙飛行機」とはまったく違う条件の紙飛行機が飛ぶのを体験し、実験終了後、大平氏を熱心に質問攻めにしている光景も見られた。日頃当たり前だと考えているのとは違う現象を見て、なぜなのかを考えること、それは科学的思考の育成のひとつの方法であり、それを支えるには理科の授業はもちろんだが、科学読み物をはじめとする図書館資料も重要である。そのため、学校図書館の専門職には、役立つ資料を選択収集し、提供する責任がある。

その後、関連の内容をテーマにブックトークの演習を実施した。実際に科学実験を体験したためか、どのグループも、子どもたちの多様なものの見方を引き出せるように、多様な資料を選び、紹介内容にも工夫を凝らしていた。子どもたちの読書体験がさまざまな意味を持つことを受講生が知るひとつのきっかけになっていればよいと願っている。

（岩崎れい　人間文化学科教授）